

# 第二協立病院

## 秋祭り

10月10日（木）に毎年恒例の秋祭りを開催いたしました。

今年は天候にも恵まれ、野外で綿菓子やポップコーン、ヨーヨーつりやスーパーボールすくい等を皆様楽しんでいらっしゃいました。綿菓子をみて笑顔になられている方や、自分が取ったきれいなヨーヨーを見せてくださる方など皆様とても楽しそうに過ごしておられました。

子供たちのダンスもとても素晴らしく、患者様も職員も笑顔になった一日となりました。来年も皆様に楽しんで頂けるよう様々な工夫をしていきたいと思っております。

患者サービス委員会



## 第15回ふれあいフェスタを開催しました

11月16日に第15回ふれあいフェスタを開催し、70名の方にご参加いただきました。

当院で出産された患者様がお子様と一緒に遊びに来て下さると、毎回とても嬉しく思います。ハンドマッサージやヨガなどに参加いただき、皆さまと一緒に楽しい時間を過ごすことができました。これからも地域の方々に少しでも貢献できるよう、取り組んでいきたいと思っております。

産婦人科病棟



### ★以下は参加された方々のアンケート内容です☆彡

- ・ヨガは回数が増えるとありがたいです。
- ・子どもが喜んでいました、ありがとうございました。
- ・とても良い機会でした。二人目を生むときにお世話になりたいと思いました。

## マタニティヨガ

当院に通院中の16週以降の妊婦さんを対象に、今年度11月から新しくマタニティヨガのクラスを開催することとなりました。（第1、第3金曜日午後）マタニティヨガの目的は、安産に向けて、適度な有酸素運動として、運動不足の解消・ストレス発散につなげる、妊娠中の過度な体重増加を予防することなどです。周りに興味のある方がいらっしゃれば、ぜひお気軽に外来までお問い合わせください。



産婦人科病棟

# Smile通信 ~みんなが主役~

第14号

発行日 2019年 12月



## 医療法人協和会 第4回学術会

-地域に支えられ、成長する協和会-

当法人では、2年に1回全職員参加型の「学術会」を開催しています。「学術会」では、特別講演会・シンポジウム・口演・ポスター発表などがあり、様々な部署・職種の方々が、課題に対する研究・試行に関する発表があります。2019年9月29日には、グランキューブ大阪で第4回目となる学術会があり、当院からは、言語療法科の山根主任が発表致しました。



この度、学術会に参加させていただき「経管栄養から経口摂取へ“経口摂取へ円滑な移行を目指したシステム構築”」というテーマでポスター発表をしました。

近年、急性期病院から回復期病院への転院が早い傾向があり、それに伴い当院においても発症から早期の患者様の入院が増加しています。そのため鼻腔チューブにて栄養を摂取されている患者様の入院も増加しています。言語聴覚士（ST）は鼻腔チューブから経口摂取への円滑な移行のために、適切な嚥下機能評価と経口摂取開始や食形態変更のタイミングの見極めが必要となります。嚥下機能評価は様々な指標をもとに総括して行うため、これまでSTの経験年数によって評価や調整に差が生じやすい状態でした。

そこで今回、当院オリジナルの嚥下機能評価表の作成、嚥下開始食品の導入を行い、その結果、評価・食事調整における個人差の軽減、より安全な嚥下訓練の開始、栄養面にも着目した逆算的な訓練計画の促進が図れました。今後、更に改良を重ね、より実用的な評価表を作成していきたいと考えています。



今回の発表を通し、日々の業務を見直すことができ、また他院での様々な取り組みを学ぶ機会にもなり貴重な経験となりました。この経験を今後の臨床にも活かしていきたいと思っております。

言語療法科 山根 真愛



## 研修会を開催しました！！

11月2日（土）兵庫トレーニングサイトより5名の講師をお迎えし、「アメリカ心臓協会BLSプロバイダーコース研修」を実施しました。全職種から受講希望を募り、10名が参加しました。2～3名のグループにインストラクターが1名付き、成人のBLS、小児のBLS、乳児のBLSの一連を「見て学び、できるまで実践する」を繰り返し、最後には全員が実技・筆記試験に合格することができました。BLSの知識は院内だけでなく、様々な場面で役立つため、今後も継続して研修を実施したいと思います。

看護部 教育委員会

### 参加者からの声



乳児から成人までの心肺蘇生を実践・学習し、とても刺激的な時間が体感できました。救急車が到着するまでの約10分を想定し、心臓マッサージ、人工呼吸を行ないましたが、想像した以上に大変なものでした。有事の際、病棟では、特に夜勤帯などスタッフが少人数であるため、より洗練されたチームワークが求められます。



当病棟では日頃スタッフ間でのコミュニケーションを多くとり、お互いを尊重し、信頼し合い、固い絆で結ばれています。今回の学びを共有し、スーパーな看護師になれる様、日々精進いたします。



## ～着任のご挨拶～



10月1日付で、第二協立病院の事務長を拝命しました小田政司です。宜しくお祝い致します。私は平成13年に協立病院に入職し、平成15年から第二協立病院で約5年間。平成20年から千里中央病院で約2年間。平成22年から協立温泉病院で9年間勤務させて頂いており、この度、前任の内堀事務長のあとを受けまして就任致しました。第二協立病院を離れてから約11年間ということもあり学ばなければならないことが多く、また仕事の大変さもひしひしと感じ、改めて身の引き締まる思いであります。

さて、現在の日本は65歳以上の方が人口に占める割合が倍増しております。川西市におきましても、65歳以上の方が占める割合は2015年調査では30.1%でした。2045年には41%になると予測されております。このような社会情勢を踏まえ、第二協立病院としましては、今後益々良質な医療の提供が求められてきます。

福田院長と共に第二協立病院の目指すべき方向性を明確に示し、職員一丸となり川西市の医療を支えていきたいと考えております。第二協立病院が更に発展していく事ができますよう微力ながら努めて参りますので、ご指導、ご鞭撻の程宜しくお祝い致します。

事務長 小田 政司



## 腰痛や膝痛を予防しましょう！

今回も「キネステティック」の概念を使った、腰痛・膝痛予防におけるコツをお伝えしたいと思います。第5弾となりましたが、今回のテーマは「重力と重さ」です。

急ですが質問です。今、宇宙にいるとします。その宇宙空間で好きな姿勢を取って下さい。その姿勢は、立っていますか？それとも寝転んでいますか？それとも、座っていますか？明確に答えるには難しいかもしれませんが、なぜなら、「姿勢」とは「重力」によって身体の「重さ」がどのように支持面に流れて（圧が掛かって）いるかで認識しているからです。私たちは地球上にいる限り、「重力」との関係性を切り離すことはできません。ですから、「重力」に抗うのではなく、上手く付き合っていくことが、身体を楽に使うコツになるのです。

では、どうすれば「重力」と上手く付き合えるのでしょうか？立ち上がり動作を例に考えてみましょう。立ち上がり動作とは、座位から立位へと「体位」を変えるプロセスです。ここで大事なポイントは、**身体は空間に対して上に移動します**。ですが、**重さは下**（骨盤から足）に向かうという事です。身体は空間の上に動くので、身体の「重さ」も同じように上方向に持ち上げようとたくさん力を使って立ち上がっている方をお見かけします。それでは腰や膝に多くの負担がかかってしまいます。「重さ」を下に移動させる時にこそ「重力」をうまく使うのです。自分の力ではなく、外側の力（重力）を使った方がお得だと思いませんか？

まずは立ち上がりや起き上がり動作で「身体は上、重さは下」という動きのイメージを持ち、自分の重さを持ち上げないように少ない力で動く練習をしてみましょう。そして楽な動きを探求してみてください。

理学療法科 小原 健太郎

## 【編集後記】

『Smile通信 第14号』をお読みいただきありがとうございました。今後とも皆様の興味をひきつける、読みやすい誌面作りを心がけ、委員一同全力で取り組みたいと考えております。1年間ありがとうございました。

地域連携推進委員会 高橋 亮太

## ～着任のご挨拶～



非常勤勤務を経て、2019年10月より透析科常勤医師として入職しました永井道子と申します。

私は眼科からすぐ内科に転科した変わり種で、転科後は腎臓・透析医の道を行って参りました。勤務地としては関西と関東が半々で、今回初めて兵庫の病院とご縁ができました。

当院では透析室主体に勤務し、一部入院患者さんも受け持つことになっております。こだわり満載の患者さんが、しゅしゅでも正しい病識を持ち、行動変容を受け入れてくれた時に一番うれしく感じます。エリア・施設ごとのマイルールや久々の常勤復帰で戸惑うことも多少ありますが、早く慣れて、透析室全体の医療の質の底上げができるよう、微力ながら尽力して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

腎臓内科医 永井 道子



## インフルエンザと薬剤



寒さが厳しくなり、インフルエンザの季節がやってきました。院内では患者様に合わせて様々な抗ウイルス薬を処方しています。若い方は1回で終わる吸入薬がいいでしょうし（カプセルは5日間服用）、うまく吸入することができない高齢者の方にはカプセル剤、辛くて薬が飲めない方には点滴もあります。どのような状態の患者様であるのかを確認するのはもちろん、これらの薬剤は腎機能によって飲む量が変わるため、一人一人の腎の状態を確認することが必要です。



また新型インフルエンザの脅威に備えて耐性菌についても意識していかなければいけません。安易に抗ウイルス薬を服用する事は耐性菌を増やすリスクとなるため、これからは本当に必要であるのか確認すると共に、薬剤の選択も慎重にしないといけないと考えています。

薬剤科



## 消防訓練について



11月6日(水)に川西市の消防隊員の立ち合いのもと、消防訓練を実施しました。訓練内容は、消火訓練、避難訓練、通報訓練を含んだ総合訓練で、夜間帯の7階南病棟を出火場所に想定して行いました。

病院には自力避難が困難な方々が多くおられます。不測の事態に備えて、日頃の準備と心構え、訓練の重要性を改めて感じる事が出来ました。

訓練と同時に院内の構造についても、再確認しました。

- ・避難経路
- ・避難口
- ・警報装置の位置や消火器や消火栓の位置
- ・非常階段



防災委員会 高橋 亮太